



緑と清流が融合する「こぶしの里」



成虫になったホタル。寿命は長くて2週間ほど



成虫になって再会する約束をしながら放流

い」との思いから、今年3月21日に竹間沢小学校の3年生58人に協力してもらい、ホタルの幼虫をこぶしの里の川に放流。子どもたちは、コップに分けたホタルの幼虫に興味深々。気持ちよさそうに泳ぎだした幼虫たちに「大人になって、いつばい光を見せてね」と声をかけ、成虫になって再会をする約束をしていました。



▲車でお越しの際は案内看板に従って駐車してください

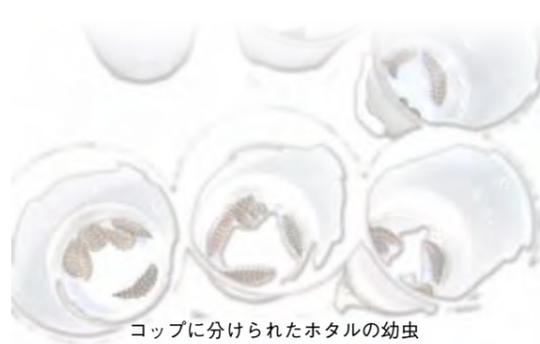
ホタルを見ることのできる喜び
都心からそれほど離れていない場所でホタルを見ることができ、ホタルが棲むことができるほどの環境が、私たちの身近な場所にあることは、とても素敵なことではないでしょうか。小さいころに自然に囲まれ、夢中で遊んだあの頃の思い出たち。ひよつとしたらホタルの光がその思い出たちを照らしてくれるかもしれません。

歴史民俗資料館 ☎ 258-6655 旧池上家住宅で「古民家劇場」開催

「いろりで楽しむ朗読会」
日時：6月9日（土）18：00～19：00

「ほたるのしらべ～オカリナ・影絵コンサート～」
日時：6月10日（日）18：00～20：00

ホタル観賞の期間、資料館では夜間開館をしています。ホタル観賞と合わせてお立ち寄りください。



コップに分けられたホタルの幼虫

「あの光景を 子どもたちに 見せたい」



地元の竹間沢小学校3年生たちによるホタルの幼虫放流の様子

竹間沢ほたる育成会

平成14年に発足した「竹間沢ほたる育成会」を皆さんご存じでしょうか。

「子どもたちのころ、この辺り（竹間沢、竹間沢東）は田んぼが広がり、緑に囲まれ夏になると昆虫採取に夢中になりました。

昔は田んぼには無数のホタルが空を舞い、みんなで観賞したものです。ホタルが作り出す幻想的な光を、今も忘れることはできません。その光を今の子どもたちにも見てほしいという思いから、この会が結成されました。」（現会長の古寺貞之さん）

川の清掃を行うとともに、毎年約千匹弱のホタルの幼虫をこぶしの里に放流し、6月にほたるの光を皆さんに楽しんでもらえるような活動しています。現在会員は28人。観賞の時期には、周辺バトロールや、おとずれる人に、観賞のポイントを伝えるなどしています。

子どもたちが放流

「地元の子どもたちに、ホタルのことを身近に感じてほし



約40年前のこぶしの里

アポロ11号が月面着陸に成功した、昭和40年代半ばころの「こぶしの里」周辺の風景。自然豊かな場所としてこのあたりは、当時の子どもたちの絶好の遊び場となっていました。

現在でも、こぶしの里の脇に流れる「こどもの川」でザリガニ採りをしている親子をよく見かけることができます。

家族親しい場としても楽しめるこぶしの里に、ホタル観賞だけでなく一度足に運んでみてはいかがでしょうか？

田んぼで遊んだ記憶 虫を夢中で追いかけた思い出

右の写真は昭和35年頃の竹間沢東の風景。現在の歴史民俗資料館周辺から浦和所沢バイパスを見た様子です。当時は田んぼが広がり、ホタルがいることは当たり前だったそうです。「小さいころ、学校の先生や



近所の人、友達が集まりホタル観賞を行っていました。地元では当たり前の光景で、夏のはじめの風物詩でした。あの光景をもう一度、子どもたちに見せてあげたいです。」（育成会長の古寺さん）

←子どもたちにホタルの説明をする古寺さん

